



文 武 両 輪

～勉強も行事も部活動も～

令和5年12月15日

【文書】校長 葛川 誠

快挙！ 2年連続 優良賞獲得！！ ～ 科学の甲子園ジュニア全国大会 ～

12月8日(金)から10日(日)の日程で、兵庫県姫路市で第11回科学の甲子園ジュニア全国大会が開かれました。全国大会は理科、数学等における複数分野の競技に協働して取り組むことを通じて、中学生が科学の楽しさやおもしろさを知り、科学を学ぶことの意義を実感する目的で開催されています。本校チームは8月に実施された県大会で見事優勝を飾り、出場資格を得ていました。

本校からは、高橋詩乃さん(2年3組)、金濱のぞ美さん(2年2組)、木村恵輔さん(2年2組)の3名が青森県チームの一員として参加してきました。本校と県立三本木高校附属中学校からそれぞれ3名ずつの計6名が、筆記競技と実技競技を行いました。筆記競技では、中学校レベルを超えた高校レベルの難問が出題されましたが、6名で知恵を出し合いながら解答することができました。また、実技競技では制限時間内にその場で指示された作業を行いました。今回は樹木の分類を行うもので、標本を作成したり樹木の名称を調べたりしました。

筆記試験と実技競技の結果、昨年に引き続いて、青森県チームは優良賞(全国11～20位以内)を獲得しました。各都道府県の予選を勝ち抜いた47チームの中で優良賞獲得というのは、本当に素晴らしい結果です。3名の皆さん、本当にお疲れさまでした。

高橋詩乃さん、金濱のぞ美さん、木村恵輔さんの感想を載せます。(一部抜粋・修正は筆者) **高橋 詩乃さん**

全国大会に参加して感じたことが2つあります。1つ目はレベルの高さです。筆記競技も実技競技も県大会とは比べものにならないほど難しかったです。他のチームの解き方や考え方を見たり教えてもらったりすることで、新しい物事の見方ができるようになったと思います。2つ目はチームワークの大切さです。青森県チームとして、6人で話し合ったり助け合ったりすることで、一人ではできないこともできるようになることを改めて実感しました。今回学んだことや新たにできた仲間との交流をこれからも大切にしていきたいです。応援ありがとうございました。

金濱 のぞ美さん

全国大会を通じ協力の大切さを改めて感じました。全国大会の問題は難しく短時間で解答しなければなりません。チームで協力することによって、一人では絶対に解答できない難問も解答できました。本校だけでなく三本木附属中の3人も協力し合い、全ての問題に解答することができました。その結果が優良賞獲得につながりました。昨年の順位を超えることができたかは分かりませんが、協力し合って全て出し切ったので悔いはありません。今大会では様々な県の生徒たちと友達になることができました。大切なことを学び、様々な交流ができた楽しい3日間でした。

木村 恵輔さん

応援してくださった皆さん、ありがとうございました。皆さんの応援が心の支えになりました。全国大会では三本木附属中を含めた6人チームで、青森県チームとして挑んできました。筆記競技は6人で、実技競技は本校と三本木附属中に分かれて行いました。大会中は様々な県の生徒たちと交流する機会がありました。僕は長崎県や山口県の生徒たちと交流しましたが、普段は話す機会もほとんどない人たちと話すことができ、とてもよい機会になったと思います。

